



# 連合駿台会報

No.301 平成24年1月25日発行  
 編集・発行 連合駿台会  
 広報委員長 中村 裕  
 〒101-0052 千代田区神田小川町三十二  
 明治大学「紫紺館」内  
 電話 (〇三) 三二九六―四七四七  
 FAX (〇三) 三二九六―四七四八  
 印刷 有限会社 美 創

## 大学の更なる発展に向けて

連合駿台会  
会長 山口 政廣



新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、当会の運営・活動に対しましてご理解とご協力を賜わり、厚く御礼を申し上げます。

昨年は、国内外、歴史的にも変化や災害の多い年となり、緊張や動揺の連続で、気持ちが休まる間もありませんでした。

震災・津波や原発事故で、数多くの悲劇的な想定外がありました。同時に勇気の源になる明るい想定外も経験しました。

三・一一直後、米欧の先進国だけでなく、最貧困と呼ばれるアジアやアフリカの途上国からも、熱いメッセージと物資が次々と送られて来ました。日本という国が、どれだけ世界から期待されているか、世界が日本を見る目を改めて認識させられました。

我々の価値観・人生観・歴史観に、微妙に影響を与えることになりました。

その様な中であって、幸いにも母校が、創

立一三〇周年記念式典・祝賀会をはじめ、全国校友記念東京大会や多くの意義ある行事が粛々と進められたことは、嬉しい限りです。

大学に期待される機能として

- 一、総合的教養教育
- 二、幅広い職業人養成
- 三、高度専門職業人養成（司法・会計士など）
- 四、世界的研究・教育拠点
- 五、地域の生涯学習機会の拠点
- 六、社会貢献（地域貢献、産学官連携、国際支援など）

が考えられますが、これらに関しての母校の取り組みが、マスコミ等に取り上げられ、露出度が増大していることは、それだけ評価に結びついていることであり、大変喜ばしいことです。

一五〇周年に向け、着々と改革・充実化が進められておりますが、更に「学校法人明治大学長期ビジョン」が策定されました。十年後、二十年後に社会の中核として活躍する人材の育成に期待したいものです。

当会としては、これからも母校が、社会から高い評価が得られるよう、様々な面で惜しむことなく協調・協力したいと思っております。

最後になりましたが、皆様のご支援ご協力をお願いし、ご健勝ご多幸を祈念申し上げます、ご挨拶いたします。

## 創立一三〇周年から 創立一五〇周年に向けて

大学 守弘 長堀  
学校法人 明治大学  
理事長



新春を迎え、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

二〇一一年十一月一日に明治大学創立一三〇周年記念式典、記念祝賀会を挙行いたしました。当日は、清水潔文部科学事務次官、清家篤日本私立大学連盟会長、河田梯一日本私立学校振興共済事業団理事長、村山富市元内閣総理大臣・本学顧問をはじめ、内外約千人の関係者をご来臨されました。創立者である岸本辰雄、宮城浩蔵、矢代操の三先生による「権利自由」「独立自治」の建学の精神のもと、「世界へ」「個」を強め、世界をつなぎ、未来へ」をコンセプトに据え、創立一三〇周年から創立一五〇周年に向けて、世界に誇れる社会貢献度の高いトップユニバーシティとして、研鑽に励もうと誓い合いました。

大学の使命は、公正、公平、正義の心を持ち、教育・研究の高度化を基本とし、日本

国内は言うに及ばず世界で活躍する人材を育成し、社会への貢献度を高めることだと信じています。知徳体を調和した、社会人として立派に責任と義務を果たすことができる人格の陶冶を図ることにより、本学は質の高度化に力を注いでまいります。

二〇一一年度は、財政の健全性維持のため、退職給与引当金・年金制度などの見直しを行い、大学の経営資源を高度化させるために創立一三〇周年という節目は大変効果的であったと確信しております。さらには、学校法人として「長期ビジョン」を策定いたしました。今後は、多岐にわたる計画の中でどのように推進していくのか優先順位を定めたいやうで具体的な検討が必要となつてまいります。特に、国際化の推進政策については、語学教育プログラムの充実、協定校・海外拠点の拡充、多くの留学生の受入れと送り出し、国際社会への貢献など、枚挙にいとまがない程の課題が山積されております。

国際化とは、たとえば本学の学生（卒業生）と海外の学生（卒業生）が同じ時間軸において課題に取り組むとき、本学出身者が同等以上のレベルで国際社会において十分に認められることが大切であり、それが人材教育の指標となるのだと考えます。法人としましては、十分とは言いませんが、駿河台C地区や中野第四キャンパスなどの教育環境整

備を行うことにより、学生や教員が国際的に活躍できるフィールドを拡充してまいりたいと考えております。

理事会は、皆さまのご熱意に込めるため、最善の努力を傾注し、この職責を果たしていく所存であります。本学が私学の雄として日本を牽引していくためにも、皆さまから特段のご支援・ご指導を賜りたいと存じます。

結びにあたり、貴連合駿台会のご発展と会員の皆さまのご多幸を心よりお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。本年もどうぞ宜しくお願いいたします。

## 未来を担う 若者達の活躍のために

明治大学  
学長 納谷 廣美



二〇一二年の年頭にあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

昨年、明治大学は創立一三〇周年を迎え、その基本コンセプト「世界へ」のもとに実施した多種多様な記念事業は成功裡に終え、本

学がこれから進展すべき方向性を学内外にむけ発信できたと思えます。しかし他方で、昨年は、三月十一日に発生した東日本大震災に表象されるように、社会が大変な転換期に入っていることを、人びとに実感させた年でもあったと思えます。

また昨年は、十八世紀に起きた産業革命以来の、いわゆる「近代化」路線が探求し続けた「合理化、効率化」を支えてきた「科学技術」に対する一種の神話が、崩壊しはじめた年といえます。換言すれば、「人間（格）の尊厳」という原点復帰も改めて提唱され、「人びとが希望（夢）を持って、人として生きていける社会」の実現にむけ、再び歩みはじめた年ともいえます。

そして世界は今、地域紛争の激化、「アラブの春」民主化運動、さらにはユーロをめぐる金の金融信用問題など、さまざまな問題に直面し、事態は深刻化しています。これらの現象は、今後、世界が新しい価値（基軸）に向けて流動化しつつあることの証左と思えます。世界秩序が多様化・フラット化するこの国際社会に求められる資質とは、「世界各国特有の『歴史や文化』を考慮しつつ、グローバルな視野を持って『今の社会状況』を理解しうる能力」です。この視点のもとで本学は、現在の学生達が社会で重要な地位に就き、活躍しているであろう「二十年後（それ

は、本学にとって創立一五〇周年を迎える時期）の世界」を想定し、いかなる困難に直面しても柔軟に対応し、かつ「前へ」歩みだす強い精神力を兼ね備えた人材を育成してまいります。

ところで近年、大学生の就職率は大変厳しい状況が続いています。このような時代において、学生達が自らの「夢」を実現させるためには、校友の皆様の「個」と「個」を結ぶネットワーク、すなわち連合駿台会の皆様一人ひとりのご協力が不可欠です。つきましては、未来を担う後輩達のため、本年も引き続きご支援を賜りますよう、伏してお願い申し上げます。

最後になりましたが、連合駿台会のみならずのご発展と、会員の皆様のご多幸とご健勝を心よりお祈り申し上げて、新年の挨拶とさせていただきます。



# 謹賀新年



## T C I 株式会社

代表取締役  
あくつ 昭二  
〒150-0011 渋谷区東二一七七一〇  
TEL 五四六七〇〇三六  
FAX 五四六七九三四七  
E-mail:shojitak2@tc-i.co.jp

## 株式会社新都心エージェンシー

代表取締役  
安達 明正  
〒160-0023 新宿区西新宿六一六一三  
新宿国際ビルディング新館八F  
TEL 三三四五七六八二  
FAX 五三三三二七七六五  
http://www.shintoshin-ag.co.jp

## 足立会計事務所

所  
代表取締役 長  
足立 吉松  
〒410-0832 静岡県沼津市御幸町二四一三〇  
TEL 〇五五一九三一六三九一  
FAX 〇五五一九三四〇一二五

## 学校法人明治大学

評議員会  
議長  
新井 久晴  
〒177-0041 練馬区石神井町二一四一―二五〇九  
TEL 三九九七一三四五七  
(FAX 共用)

## 税理士法人あい&ゆう税務会計事務所

代表社員  
石橋 良一  
〒142-0042 品川区二葉二一四一九一〇一  
TEL 三七八三二二一七  
FAX 三七八三一二一七五

## 株式会社明大サポート

取締役会長  
代表取締役 長  
宗近 博邦  
石原 道勝  
〒101-8301 千代田区神田駿河台一―三二一  
明治大学学生会館  
TEL 五二八〇一五〇〇  
FAX 五二八〇一五〇五

## 株式会社金城商会

取締役社長  
植松 寛  
〒104-0061 中央区銀座七―八一五  
TEL 三五七二一五五七一  
FAX 三五七二一九八五四

## 株式会社プラム社

代表取締役  
宇田川 雄弘  
〒179-0085 練馬区早宮三一七―四  
ファミリエビル一F  
TEL 三九九三一五三八一  
FAX 三九九三一五三八三

## 株式会社藤枝江崎書店・藤枝江崎新聞店

代表取締役  
長  
江崎 友次郎  
〒426-0025 静岡県藤枝市藤枝一―四一―二  
TEL 〇五四一六四四一六〇六〇  
FAX 〇五四一六四四一五二九〇

## 大石電機工業株式会社

代表取締役  
長  
大石 哲也  
〒140-0011 品川区東大井二一七―七一九  
TEL 三三六一一二二六六  
FAX 三三六一一四八五一

## 安全と信頼の警備 タイヨー株式会社

代表取締役  
大村 託現  
〒124-0024 葛飾区新小岩一―五七―三  
TEL 五六六二一三三三一  
FAX 五六六二一三三三三

## 株式会社アマダ

代表取締役  
長  
岡本 満夫  
〒259-1196 神奈川県伊勢原市石田二〇〇  
TEL 〇四六三一九六一一一  
FAX 〇四六三一九四一九七八一

## 富士建物管理株式会社

代表取締役  
長  
田 宇功  
〒190-0021 立川市羽衣町三一八―一一  
TEL 〇四二一五二四一六五一  
FAX 〇四二一五二四一六五一

## 株式会社聖和

代表取締役  
長  
小野 寺弘三  
〒533-0033 大阪市東淀川区東中島一―八一五  
新大阪丸ビル一〇〇八号  
TEL 〇六一六八一五八〇一八  
FAX 〇六一六八一五八〇一三

## アサガミ株式会社

代表取締役  
長  
木村 健一  
〒100-0004 千代田区大手町二一六―二  
TEL 四二八八―三〇〇〇  
FAX 四二八八―三〇一二

## 株式会社佐藤総合計画

取締役  
副社長  
清野 明男  
〒130-0015 墨田区横網二一〇―一二  
TEL 五六一一一七二〇五  
FAX 五六一一一七二二六

ベアリング・プライベート・エキテイ・  
アジア株式会社 株式会社LADVIK  
エモーションズ  
子会社提携

古賀慎一郎  
〒349-0111 埼玉県蓮田市東四一五―一二三  
TEL 〇四八―七六八―一四七〇  
FAX 〇四八―七六九―一三六五〇

金印株式会社

代表取締役  
会長 小林 一光

〒454-8526 名古屋市中川区八幡本通二―一六―一  
TEL 〇五二―三六一―三三二二  
FAX 〇五二―三六一―三三四四

東神興業株式会社グループ

社主 根田 哲雄

〒167-0043 杉並区上荻三―一九―一五  
TEL 三三九五―五六九九

明治大学マスコミクラブ

常任顧問 齊藤 柳光

〒330-0855 さいたま市大宮区上小町九四五  
TEL 〇四八―六四四―〇〇八五  
FAX 〇四八―六四四―〇三〇六

株式会社ザイナス

代表取締役  
社長 坂田 英夫

〒103-0027 中央区日本橋三―五―一三  
TEL 三三二七五―〇八〇八  
FAX 三三二七五―〇八〇〇

株式会社シティ・ハウジング

代表取締役 佐藤 仁

〒144-0034 大田区西糞谷四―二八―一四  
TEL 三三七四二―七六〇七  
FAX 五七〇五―一八〇九七

サンコー事務機株式会社

代表取締役  
会長 澤飯 博

〒060-0013 札幌市中央区北三条西一八丁目三番九〇号  
TEL 〇一一―六一四―二二五五  
FAX 〇一一―六一四―五二四五

創業昭和五十六年  
東都ゴルフ・株式会社東都ジャパン

代表取締役 杉浦 伸二

〒103-0027 中央区日本橋三―八―一〇  
TEL 三三二八―一〇八〇一  
FAX 三三二八―一〇八九〇

株式会社エス・オー・ケー

代表取締役 宗 邦雄

〒158-0093 世田谷区上野毛三―一六―三四〇七  
TEL 三三三〇―二六七〇九  
FAX 三三三〇―二七三三一

北斗産業株式会社

代表取締役 園田 英次

〒520-3252 滋賀県湖南市岩根一六七八―五五九  
TEL 〇七四八―七五―八四一  
FAX 〇七四八―七五―八四一  
<http://www.hokuto-inc.co.jp>

林・園部法律事務所

代表パートナー 園部 洋士  
ナバー弁護士  
〒101-0041 千代田区神田須田町一―一四―一八  
TEL 五二〇九―一三八〇一  
FAX 五二〇九―一三八〇一

（取扱業務）株式公開支援・企業法務・リスクマネジメント・反社会的勢力対策・労務管理・知的財産・不動産取引・事業再生・M&A等

ダイアナ株式会社

代表取締役  
社長 高橋 郁夫

〒150-0001 渋谷区神宮前一―一八―一六  
TEL 三四〇五―一四〇〇一  
FAX 三四七九―一八〇一四  
<http://www.dianashoes.com>

時計バンド製造  
株式会社バンビ

代表取締役  
会長 館林 精二郎

〒110-0116 台東区台東四―三二―一  
TEL 五六八八―一〇一一一  
FAX 五六八八―一〇一三九

谷公認会計士事務所

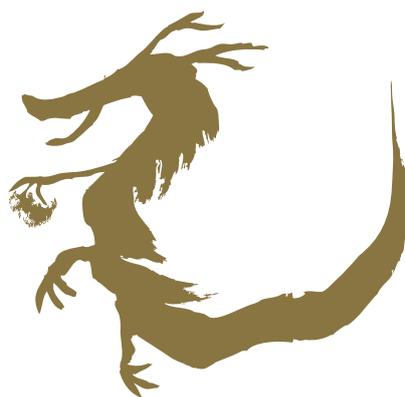
代表 谷 慈義

〒135-0004 江東区森下二―一九―一八  
TEL 三六三一―一八〇二九  
FAX 三六三一―一八〇七六  
明治大学大学院特別招聘教授・校友会本部監査委員

明治大学評議員・校友会副会長

辻嘉右工門

〒916-0055 福井県鯖江市鯖江一―〇一―一五  
TEL 〇七七八―五二―一八八五  
FAX 〇七七八―五二―七七二二  
明治大学政治経済学部講師



株式会社デイスコ  
代表取締役  
社長 夏井 丈俊  
〒112-8515 文京区後楽二一五一一  
TEL 五八〇四一五五〇〇  
TEL 五八〇四一五五〇〇  
FAX 五八〇四一五九一九

株式会社桔梗屋  
オーナー 中丸 眞治  
〒400-0862 山梨県甲府市朝氣三一一一二四  
TEL 〇五五一一二三三四〇〇五

株式会社ナガホリ  
代表取締役  
会長 長堀 守弘  
〒110-8546 台東区上野一五一一三  
TEL 三三三六四七二一三  
TEL 三三三六四七二一三  
FAX 三三三五〇八一五

管工機材ビル設備資材空調機器住宅設備機器の総合会社  
株式会社ナカシマ  
代表取締役  
会長 中島 御幸  
〒670-0944 兵庫県姫路市阿保甲八七八  
TEL 〇七九一二八一七〇七三  
TEL 〇七九一二八一七〇七三  
FAX 〇七九一二八一七〇〇七

株式会社太昌園  
代表取締役 長岡 信裕  
〒110-0005 台東区上野二一八一一〇  
TEL 三三三四一六五四一  
TEL 三三三四一六五四一  
FAX 三三三四一四五一〇

学校法人明治大学  
常勤理事  
財務担当 橋口 隆二  
〒101-8301 千代田区神田駿河台一一一  
TEL 三三九六一四〇〇〇  
TEL 三三九六一四〇〇〇  
FAX 三三九六一四三三二八  
学校法人明治大学評議員

つばさ法律事務所  
弁護士 一宮 充忠  
弁護士 一宮 充子  
弁護士 一宮 充子  
〒101-0047 千代田区内神田一一三一一  
(東京弁護士会所属)  
高砂ビル五F  
TEL 三三九五二二五一  
TEL 三三九五二二五一  
FAX 三三九五二二三三八

西山商事株式会社  
代表取締役  
会長 西山 武夫  
〒201-0004 狛江市岩戸北四一九一〇二  
TEL 三三三八〇一四二〇  
TEL 三三三八〇一四二〇  
FAX 三三三八〇一四三六五

明治大学  
学 長 納谷 廣美  
〒101-8301 千代田区神田駿河台一一一  
TEL 三三九六一四〇二三  
TEL 三三九六一四〇二三  
FAX 三三九六一四三三三三

株式会社ナミキ  
代表取締役 並木 洋一  
〒175-0094 板橋区成増三一一二二一一  
TEL 三三九三九〇〇二八  
TEL 三三九三九〇〇二八  
FAX 三三九七五〇〇五六

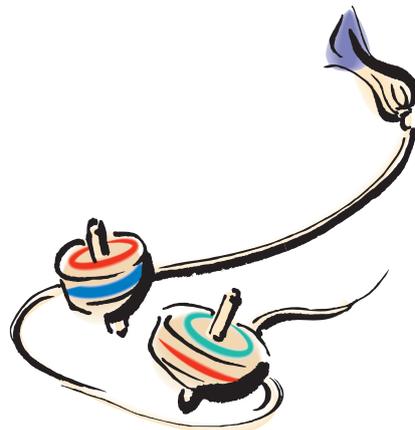
弁護士 堀越 孝

メトロ電気株式会社  
代表取締役  
会長 藤巻 伴英  
〒101-0063 千代田区神田淡路町一一一九一四  
TEL 三三三三三〇三六  
TEL 三三三三三〇三六  
FAX 三三三五一一三三九九四

スーパースタック株式会社  
取締役  
社長 福田 吉弘  
〒171-0021 豊島区西池袋五一八一一一  
TEL 三三九八七一九二〇一  
TEL 三三九八七一九二〇一  
FAX 三三九八七一九二九六

日本リツク株式会社  
代表取締役  
会長 日高 憲三  
〒102-0072 千代田区飯田橋四一八一三三  
タカラビル四F  
TEL 五二二六一六五五一  
TEL 五二二六一六五五一  
FAX 五二二六一五三二一五

本年も宜しくお願致します  
長谷川勝彌  
〒178-0065 練馬区西大泉四一八一三六  
TEL 三三九二一一五九七三



本間・北本総合事務所

税理士 本間美邦

〒102-0083 千代田区麴町四-3-15  
紀尾井観光ビル  
TEL 三二六五-1516  
FAX 三二六五-1517

高野山真言宗妙智山歆成院名誉住職  
宗教法人 大倉山アソカ幼稚園園長

摩尼和夫

(僧名之 法)

〒222-0037 横浜市港北区大倉山2-18-7  
TEL 〇四五-1532-2054  
FAX 〇四五-1532-4114

岡谷電機産業株式会社

代表取締役  
会長CEO 丸山律夫

〒158-8543 世田谷区等々力六-1-6-19  
TEL 四五四四-7000  
FAX 四五四四-7007

エフ株式会社

代表取締役  
宮下隆

〒170-0005 豊島区南大塚3-32-1-10  
TEL 五九五〇-1665  
FAX 五九五〇-1665

株式会社内田洋行

名誉会長  
向井眞一

〒104-8282 中央区新川二-14-17  
TEL 三五五五-4001  
FAX 三五五五-1420

明治大学校友会名誉会長

村山富市

〒870-0033 大分市千代町三-2-12  
TEL 〇九七-523-0033  
(FAX共用)

株式会社デザインノ森

代表取締役 杰林 一朗

〒231-0005 横浜市中区本町六-1-52  
横浜エクセレントVII・5F  
TEL 〇四五-1281-2550  
FAX 〇四五-1281-2550  
<http://www.demori.co.jp>  
E-mail:imori@td5.so-net.ne.jp

共同印刷株式会社

相談役 山口政廣

〒112-8501 文京区小石川四-1-4-1-2  
TEL 三八一七-2222  
FAX 三八一七-2220

山崎製パン株式会社

取締役  
副社長 山田憲典

〒101-8585 千代田区岩本町三-1-0-1-1  
TEL 三八六四-3211  
FAX 三八六四-3209

株式会社日本金属工芸研究所

取締役会長  
彫刻家 山田朝彦

〒113-0023 文京区向丘一-16-1-2  
TEL 三八一-1770  
FAX 三八一-1003

あかつき税理士法人

公認会計士  
税理士 吉田光一郎

〒110-0015 台東区東上野一-25-1-3  
小松和東上野ビル5F  
TEL 三八三六-6891  
FAX 三八三六-6893

若築建設株式会社 東京本社

総合システム部  
部長 吉村國廣

〒153-0064 目黒区下目黒二-23-1-18  
TEL 三四九二-0280  
FAX 三四九〇-1019

株式会社ティーワイリミテッド

代表取締役  
会長 依田 巽

〒107-0062 港区南青山二-22-1-18  
TYビル  
<http://www.tylimited.co.jp>

株式会社ヨネクラプロモーション

代表取締役  
会長 米倉健司

〒171-0031 豊島区目白二-28-1-9  
TEL 三九七一-0181  
FAX 三九八一-7746



連合駿台会十一月例会

「気象情報をよみとく」

「多種多様な情報を生かすには」

NHK気象キャスター 佐藤公俊氏

連合駿台会平成二十三年十一月の例会を、十一月十六日（水）十八時より、明治大学「紫紺館」三階会議室で、佐藤公俊氏をゲストスピーカーとして開催しました。

当日の講演の要旨は以下の通りです

\*



様々な気象情報が流れる中、実は大切な情報が伝わりにくいという現実を踏まえ、貴重な情報をいかに入手し、それを生かしていくにはどうしたらいいか、ということをお話したい。

身を守るための情報

市町村長が発表する避難準備、避難勧告、避難指示、気象庁が発表する気象警報・注意

報、気象情報、記録的短時間大雨情報、土砂災害警戒情報、竜巻注意情報などのうち、最も危険が迫っているのは、避難指示である。避難指示は、人的被害の発生する危険性が非常に高い、あるいはすでに発生している時に発令され、すぐにも避難が必要となる。一方、避難勧告と非難準備情報は、人的被害の発生する可能性が高い場合で、避難を開始しなければならぬ段階である。二〇〇〇年に西根杷島町で、住民の約九割が床上浸水を受けた東海豪雨が起きたが、避難勧告発令時に「身の危険を感じた人」は三割未満、「避難の必要性を意識した人」は四割未満しかおらず、住民に危険性が十分伝わっていなかったことが、その後のアンケートで明らかになった。

図I 大雨の場合に気象庁が発表する防災気象情報



図Iは、大雨が降った場合、どのような順番で情報が出されていくかを表している。一日程度前に大雨に関する気象情報が出され、翌日にかけての予想雨量が発表されるが、大雨注意報を経て大雨警報が発令されるのは、数時間から一、二時間前で、かなり危険性が高まってからと言わざるを得ない。記録的短時間大雨情報というものは、数年に一度程度、短時間に猛烈な雨を観測した時に出されるもので、一時間に八〇mmから一〇〇mm程度の大雨が降ると予想される。さらに土砂災害警戒情報（都道府県と気象庁が共同で発表）が出される段階までくると、崖の近くなどはかなり危険な状態で、離れた方がいいということになる。しかし東京都は平坦な場所が多く、中央区・墨田区・江東区・葛飾区・江戸川区・足立区・武蔵野市・狛江市の六区二市は対象外で、もちろん注意は必要だが、深刻な都市災害への警戒はあまり心配いらぬ。道路が冠水するほどの大雨が降り、記録的短時間大雨・土砂災害警戒情報が発表された時には、①地下・半地下へは行かない、②道路の端は歩かず、棒でつついて進む、③川や水路、崖には近づかない（崖の高さの二倍以上離れることが原則）、④崖から離れた部屋、二階などへ避難する、⑤車は運転しない、⑥アンダーパス（高架になっていて地下をくぐる所）を通らない、などの注意が必要だ。

よく「バケツをひっくり返したような雨」という言い方をしますが、これは一時間に三〇ミ以上の雨のため道路が川のようになる状態だ。五〇ミ以上だと「滝のような雨」と言い、マンホールから水が噴き出してくるようになるが、現在の東京の下水排水基準ではこれが限界だといわれる。八〇ミ以上の猛烈な雨では息苦しくなるような圧迫感を伴い、恐怖すら感じるようになる。一時間に三〇ミ以上、一日に一〇〇ミ〜二〇〇ミ以上が災害の起きやすい目安だが、前回の紀伊半島の記録的豪雨の時は、一日に四〇〇ミ〜五〇〇ミもの降水量があり、大規模な災害につながった。

では「やや強い風」というのはどんな風かというと、風速一〇ミ以上で傘がさせない、電線が鳴る状態を指し、時速に直すと三十六ミ以上に対応する。ちなみにJR東日本では、風速二十五ミ以上で運転中止、二十ミ以上で時速二十五ミ以下の速度規制がなされる。

台風に関しては、予報円が大きくなると勢力が強くなると思われる人も多いようだが、予報円が大きいということは、どこに入るかわからないということで、勢力の強弱とは関係ない。暴風警戒域の中にあるのが予報円なので、暴風警戒域から予報円分を引いた距離がその時間の暴風域になり、その差がだんだん広がっている場合は、暴風域が広がり勢力が強まっていることになる。

### 天気予報はなぜ外れる？

言い訳に聞こえてしまうかもしれないが、理由の一つには、すべての大気は観測できず、スーパーコンピュータではじき出しても、大気の予測式は完全ではないという、技術的限界があげられる。もう一つには、技術力が限界を超えたとしても、気象はカオス（混沌）であるという性質に関係する。つまりほんの少しのことでも、時間がたつと大きく影響を与えようということだ。「バタフライ効果」といって、一匹の蝶がブラジルで羽をはばたかせると、アメリカで竜巻が起るとささ言われるほどだ。あるアメリカの学者が言ったことだが、「天気予報はずれる」ではなく、「天気予報はずれる」と捉え、ずれが生じることをご理解いただけるとありがたい。

天気予報の外れを見抜く方法は、

#### ① マークだけでなく予報文も

テレビなどではマークだけが全面的に出してしまうが、たとえ曇りと晴れマークしか出ていなくても、「所により夜雨」などということが書かれている場合があるので、予報文も細かくチェックするとよい。

#### ② 降水確率もチェック

降水確率は一ミ以上の雨・雪の降る確率だが、晴れと曇りマークの日でも、三〇％は降る可能性がある一方、雨や曇りマークの日でも五〇％は降らない可能性がある。

#### ③ 週間予報 ずれと曇りに注意

雨が降りさえしなければ、降水確率は適中したことになる。しかし雨は前後にずれることが多く、週間予報で五日・六日先に雨となってもずれる確率が高いこと、また曇りの予想には雨も隠れているということも念頭に入れておいて欲しい。

#### ④ 信頼できる天気予報を

マークは同じでも、解説は人によって違うので、どこに強調・ポイントがあるかにより、大切な所や確信がある場所がわかる。「可能性がある、かもしれない」という言い方は弱い表現に聞こえるかもしれないが、実際には意思が入り可能性が高いこともあるので、注意してもらえるといいと思う。

#### 地球温暖化が進むと？

激しい雨が増える、猛暑が増える、桜の開花が早まるなどの異常現象があげられる。

一時間降水量五〇ミ以上の発生回数（全国のアメダスより集計した千地点あたりの回数）を見ると、一九七六〜八六年は年間平均百六十回、八七〜九七年は同百七十七回、九八〜二〇〇八年は同二百三十九回と、約三十年間で、非常に激しい雨が降る回数が激増していることがわかる。今後、これまでに経験ないような記録的大雨が局地的には起こりやすくなるので、路面から水が溢れたような時は、すぐに非難することも必要だ。

次に東京の真夏日日数は、一九〇〇年代は二十八日だったが、年を追うごとに徐々に増え続け（※八〇年代には例外的に一時的に減少している）、二〇〇〇年代には五十三日と、百年前からほぼ倍増し、一年のうちふた月近くが真夏日という異常気象を引き起こし、熱中症にもかかりやすくなってきている。

最後に桜の開花・満開期の話をした。東京では平年、開花が三月二十六日、満開が四月三日だという。戦前の一九三〇年代は、開花が三月三十一日、満開が四月九日だったが、二〇〇〇年代の十年間の平均で見ると、開花が三月二十二日、満開が三月三十日ということになってしまった。以前は桜と言えば入学式のシンボルだったが、今は早まって卒業式

図Ⅱ



※赤線は満開、青線は開花を表す

の風物詩になってしまった。このままいくとどれくらい早まるかといえば、四十年後には開花が三月二十一日、満開が二十六日、二十世紀を迎える頃には、開花が三月十六日、満開が二十一日になるとみられる(図Ⅱ参照)。桜のピークが卒業式になるのはちょっと寂しい気もするが、季節が早まっていくのも、地球温暖化に大いに関係している。

【講師略歴】

佐藤公俊(さとう・きみとし)  
 一九七三年 東京都立川市生まれ  
 東京都立川高校、明治大学農学部農学科卒業  
 大学在学中の一九九四年八月に実施された第一回気象予報士試験で資格を取得  
 一九九六年 日本気象協会に入社、二〇〇三年からNHKテレビの気象情報(全国・関東)に出演している  
 二〇〇三年～二〇〇七年 NHK気象情報(土日・昼前・夕方)出演  
 二〇〇七年～二〇〇八年 NHK『おはよう日本』出演  
 二〇〇八年～二〇一〇年 NHK『首都圏ニュース845』『ぎょうのニュース&スポーツ』出演  
 二〇一〇年～ NHK気象情報(昼前)出演  
 特技は、関東の局地予報、手話、野球、パントマイム

◆**広報委員会からのご案内(理事会議事録)**  
 日時：平成二十三年十一月十六日(水)十七時  
 場所：明治大学「紫紺館」(二F会議室)

○新推薦会員承認の件

丸山委員長から、以下の説明があった。  
 組織委員会では入会推薦書が提出されている石川かおり氏、木下重次郎氏、大竹夏夫氏、濱崎治氏、金澤富夫氏、阿部憲一氏、秋山五郎氏、根田吉雄氏(根田哲雄氏ご子息)の八人について入会を承認する。ただし、一人については二つの確認事項があるため、その判断は委員長に委任して欲しい。  
 これを踏まえ、全員異議なく承認された。

○その他(新会員の増強について)

会員増強については担当委員会での検討をお願いしていたが、推薦リストができあがり、皆さんに協力をお願いするところまでこぎつけた、との報告があった。詳細については、丸山委員長から説明があった。

懸案になっていた会員増強について検討を重ねた結果、先日、明治大学OB社長・役員リストを入手することができた。そこから委員会によって、可能性のある範囲を絞り込み、年齢は原則として上限七十歳、資本金は従来の規定通り三千万円とし、さらにそこか

ら枠を設け、二〇二一年度の最新情報に当てはめて、現在どういう立場にいるかを確認し、リストができあがった。

元のOBリストは二千名ほどだったが、新しく作成したリストは二百七十名くらいに絞ってある。それに基づき、とりあえず組織委員で自分たちがわかる範囲(同業界である、関連がありそう、知人経由でコンタクトできそう等々)でピックアップした結果、約二割の五十名くらいになった。これから今日お集まりの方々にはリストをお配りするので、ご覧いただき、皆さんの関係のある方、知人・友人、先輩・後輩など、この人なら可能性がある人という人を、なるべく大勢チェックしていただき、リストは事務局に提出して欲しい。今後の手順としては、十二月二十日にチェックの整理を終わらせ、誰が担当するかを決め、会長名で入会案内文書を作って発送し、電話や直接会うなどのコンタクトを取りたいと思っている。またこのリスト以外にも、入会していただけそうな方は、積極的にご推薦いただきたいと思います。

【報告事項】

・オープンゴルフ開催の件

年に一回だけ開催している、連合駿台会オープンゴルフコンペ(今回で第三回目)については、今回は初めての試みとして、前日

(二〇二二年三月十日)に宿泊、懇親会を開き、翌十一日にプレイするという計画を立てている。これは、従来行ってきた、一日バス旅行に代わるものでもあり、館山カントリークラブは、会員の中村欣治氏が理事長を務める。詳細については後日ご連絡する。

以上

◆新入会員ご紹介

前会までの理事会で承認され、入会された方をご紹介します。(敬称略)



渡邊 智恵子  
昭和五十年・商学部卒  
㈱アバンティ・代表取締役  
東京都新宿区在住



木下 重次郎  
昭和三十二年・政経学部卒  
木下運輸(株)・代表取締役  
長野県松本市在住



石川 かおり  
昭和五十三年・法学部卒  
石川歯科医院  
東京港区在住



濱崎 治  
昭和四十六年・工学部卒  
栗原工業(株)・常務取締役  
東京都大田区在住



根田 吉雄  
平成五年・政経学部卒  
東神興業(株)・代表取締役  
東京都杉並区在住

◆訃報

会員の前嶋弘一氏(昭和四十四年・政経学部卒、日新水産(株)代表取締役社長)が、平成二十三年九月八日に逝去されました。会員の林邦雄氏(昭和四十一年・法学部卒、ユニバーサル企業(株)営業部長)が、平成二十四年一月一日に逝去されました。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

◆明大ニュース

●明治大学創立一三〇周年記念式典

学校法人明治大学は大学創立一三〇周年を記念し、創立記念祝日となる十一月一日に、「明治大学創立一三〇周年記念式典」を駿河台キャンパス・アカデミーホールで盛大に挙行了した。

式典は、国内外から多くの関係者・来賓が

参列する中、厳かに開式。長堀守弘理事長、納谷廣美学長が、それぞれ一三〇年前に明治法律学校を創設した三人の創立者―岸本辰雄先生、宮城浩蔵先生、矢代操先生―の志に思いを馳せながら、大学を代表して式辞を述べた。

来賓からは、中川正春文部科学大臣（清水潔文部科学省事務次官が代読）、慶應義塾大学塾長の清家篤・日本私立大学連盟会長がそれぞれ祝辞を述べた。また、野田佳彦内閣総理大臣からの祝電も披露され、「わが国に冠たる私学として成長を続け、わが国の学問・研究・教育に引き続き寄与してほしい」などとするメッセージが本学に寄せられた。

#### ●第四十七回「明治大学全国校友東京大会」

##### 〈第一部〉

明治大学校友会（向殿政男会長）は十一月三日、「明治大学創立一三〇周年記念―明治はひとつ紫紺魂百三十年―」と銘打ち、駿河台キャンパスのアカデミーホールをメイン会場として、第四十七回明治大学全国校友東京大会を開催した。全国および海外から約二千人の校友とその家族が母校明大に参集した。

十三時からの式典は、松永二三男氏（一九七四年政経卒）と前田真里氏（二〇〇四年政経卒）二人の司会により進行、元大洋ホエールズ（プロ野球選手）の土井淳氏（一九五六

年商卒）が大会旗を掲げ入場し、国歌・校歌の斉唱後、物故校友へ黙祷が捧げられた。

加茂登千大会副実行委員長（一九五六年商卒）が開会宣言を行い、真野孝志大会実行委員長（一九六〇年政経卒）が歓迎のあいさつに登壇。来賓の猪瀬直樹東京都副知事、石川雅己千代田区長の臨席、長堀守弘理事長、納谷廣美学長をはじめ大学役員・役職者、多くの校友、連合父母会や諸団体への謝辞に続き、「五十万人を超える校友の活躍が大学発展の源。校友会は明治大学のさらなる飛躍のために尽くしていく」と述べると、会場は大喝采に包まれた。

来賓紹介・校友会役員紹介に続き、大会会長として向殿政男校友会会長があいさつし、開催に至るまでの多くの関係者の尽力に謝意を表し、「東日本大震災の影響で開催が危ぶまれたが、明治大学校友会は、このような時こそ世の中に元気を与えられるような形で大会を成功させよう『がんばろう日本！ 負けるな東日本！ 共に力を合わせて前へ！』を合言葉に本日を迎えられることは感激の極み」との言葉に続けて、「母校明大は理事長・学長のリーダーシップのもと『世界へ』をキーワードに大躍進を遂げ、校友は誇りに思っている。校友会は、学生および校友の活躍と母校支援のために全力を尽くす」と力強く語った。

大学からは、長堀理事長、納谷学長が大

会開催への祝辞と、校友会の日ごろの大学への支援に感謝を述べ、創立一三〇周年を機に母校明大が世界へ羽ばたくために着々と改革を推進するとし、大学の国際化や研究体制強化などさまざまな取り組みについて、一層の理解と協力を求めた。

続いて丹澤正彦明治大学連合父母会長、来賓の猪瀬東京都副知事、石川千代田区長からそれぞれ祝辞が述べられた。

感謝状贈呈では、はじめに明治大学創立一三〇周年記念功労感謝状が長堀理事長より向殿校友会会長へ贈呈された。次に校友会特別表彰が行われ、全国校友大会に十回以上参加し、一定の条件を満たしている四十六人に感謝状が贈呈された。代表して最多の三十一回の参加を数える斉藤直氏（一九五三年政経卒）へ向殿校友会会長より感謝状が手渡された。斉藤氏は壇上で「これからも校友が一致団結して明治大学から元気を」と力強く語り会場は大きな拍手に包まれた。

祝電披露では、星野仙一氏（東北薬天ゴールデンイーグルス監督・一九六九年政経卒）など各界で活躍する著名人からのメッセージ色紙がスクリーンに映し出され、式典を祝賀した。

万歳三唱の後、宮崎國雄大会副実行委員長（一九四二年商専卒）の閉会の辞で、記念式典の第一部は盛会裏に終了した。

## ●〈第二部・第三部〉

## ●記念講演会&amp;マンドリン倶楽部演奏会

休憩をはさみ式典の第二部では、株式会社社ホリプロファウンダー最高顧問の堀威夫氏（一九五五年商卒）による「いつだって青春―数多の逆境を乗り越えて」と題した記念講演が行われ、学生時代からプロミュージシャン、そして裏方に転向した後の起業芸能プロモーターとしての社会文化貢献の軌跡が語られた。

第三部はマンドリン倶楽部による演奏会が行われ、高校時代は同部所属であった猪瀬東京都副知事も見守る中、現役学生および若手OB計五十五人による迫力ある演奏で式典は締めくくられた。

## ●第四十七回「全国校友東京大会」懇親会

十七時三十分からの懇親会は、帝国ホテル孔雀の間で二百人が参加し、盛大かつ華やかに開催され交流の輪（笑顔）がいくつも咲き広がった。

懇親会は林幸雄大会副実行委員長（一九五六年政経卒）の開会宣言でスタート、村山富市校友会名誉会長が乾杯の発声を務めた。

会の終盤では、次年度の静岡県支部（大石豊彦支部長）による大会PRに続き、応援團OBによる明大節演舞や、明治大学応援団吹奏楽部・バトンチアリーダーディング部によるチャ

ンスメドレーが披露され会を盛り上げた。

最後は、参加全員で肩を組んで校歌を斉唱、米山耕右大会副実行委員長（一九五六年商卒）の閉会の辞で東京大会は幕を閉じた。

次回は、第四十八回全国校友静岡大会が二〇一二年九月九日に静岡市のグランシップで開催される。

## ●本学出身首長と意見交換会

明治大学は十一月十六日、「明大出身首長と明治大学との意見交換会」を駿河台キャンパス・リバティタワー二十三階伊藤紫虹ホールで開催。大学側から、長堀守弘理事長をはじめ大学役員・役職者、本学出身国会議員会長の細川律夫前厚生労働大臣、村山富市元内閣総理大臣（本学顧問）が出席した。本学出身の現役首長は、二〇一一年九月現在で確認されている四十人のうち、市長一〇人、区長二人、町長十人の計二十二人が出席した。

## ●創立一三〇周年記念事業

## ●三木武夫シンポジウム

明治大学は十一月四日、元首相で本学校友である故三木武夫氏の功績や人柄、現代的意義を考察することを目的として、「無信不立（しんなくばたたず）―いま、三木武夫を問い直す」と題したシンポジウムを駿河台キャンパス・リバティホールで開催した。

開催に先立ちあいさつに立った長堀守弘理事長は、三木武夫氏が座右の銘としていた「無信不立」という言葉にふれ、「これは人間社会においてもっとも大切な言葉ではないか。今のような時期に必要とされるテーマなので心して聞きたい」と開催の喜びを語った。続いて、納谷廣美学長は「この変動の時代に、新しい視野を持った『明治魂』が必要とされている」とし、「その熱い志を持った三木武夫先生の功績を語り伝えることが、今の大学生が将来活躍するための糧に繋がる」と期待を込めた。

二部構成で行なわれた第一部では、「三木武夫を語る」と題し、毎日新聞客員編集委員で政治評論家の岩見隆夫氏がジャーナリストの視点から、続いて筑波大学人文社会学系教授の竹中佳彦氏が政党政治家の視点から見た三木武夫をテーマにそれぞれ基調講演を行った。

第二部では、「いま三木武夫を考える―現代的意義の継承」をテーマに、元首相で自民党最高顧問の海部俊樹氏、同じく元首相で本学校友の村山富市氏（社民党名誉党首・明治大学顧問）と、三木氏の地元から徳島文理大学短期大学教授の阿部頼孝氏、そして日高憲三経営企画担当常勤理事と基調講演者二名を加えた計六人が、小西徳應政治経済学部教授の進行のもと、各々の三木武夫観、氏との思い出などが豊富に盛り込まれたパネルディ

スカッションが展開された。会場は、今はなき三木氏に想いを馳せつつ、興味深く耳を傾けた。

### ● 創立一三〇周年記念事業

#### 理工学部応用化学科創設五〇周年

理工学部応用化学科創設五〇周年を祝した記念式典と講演会が十一月十九日、生田キャンパス第二校舎で開催され、卒業生や在学生を中心に、約四百人が参列した。

### ● 創立一三〇周年記念事業

#### シエイクスピアプロジェクト

#### 『冬物語』を八公演

明大生がシエイクスピア劇に挑む「明治大学シエイクスピアプロジェクト」二〇一一年度公演『冬物語』が十一月十八日から二十日の三日間、駿河台キャンパス・アカデミーホールで、明治大学連合父母会・明治大学校友会・明治大学連合駿台会・明治大学校友会千代田区地域支部の後援により開催された。三千二百人が来場した公演は、追加を含む全五回行われ、学生が創り出すエネルギーが注ぎ込まれた。多くの観客が魅了された。

### ● 創立一三〇周年記念公開講座

#### ◆ 1-N 札幌

東日本大震災から何を学ぶか

明治大学は十月三十日、明治大学校友会北海道支部（水野弘作支部長）と共催で、創立一三〇周年記念公開講座・明治大学校友会寄付講座「東日本大震災から何を学ぶか―安全・安心な日本をめざして」を京王プラザホテル札幌で開催し、定員となる二百五十人が受講した。

#### ◆ 1-N 名古屋

#### 江戸時代の異文化コミュニケーション

明治大学は十一月十九日、明治大学愛知県校友会支部（西脇司支部長）と共催で、創立一三〇周年記念公開講座「江戸時代の異文化コミュニケーション―朝鮮通信使と東海地域に残る唐人踊り」を名古屋マリオットアンシアホテルで開催し百二十五人が受講した。

### ● 創立一三〇周年記念事業

#### グローバル人材育成シンポジウム

明治大学国際連携本部は十月三十一日、「グローバル人材育成に向けて―企業、大学に求められる取り組み」をテーマに、産学合同のシンポジウムを開催した。同シンポジウムは、企業関係者・大学関係者・学生を中心とする約四百人が参加し、熱心に耳を傾けた。シンポジウムでは、参議院副議長の尾辻秀久氏、地球環境問題担当大使の堀江正彦氏を来賓に招き、基調講演者・パネリストとして海外および日本国内の大学・企業のトップ等を

招聘し、約四時間に渡り「グローバル人材育成」と「産学連携」をキーワードに講演およびパネルディスカッションを行なった。

### ● 鯖江市と連携協定を締結

#### 創立者三出身地との連携協定が完成

明治大学は十一月二十四日、創立者の一人、矢代操先生の出身地である福井県鯖江市と、連携協力に関する協定を締結した。これは、明大の知的資産および人材を有機的に活用し、鯖江市民への高度な教育・学習機会の提供を通じて、豊かな地域の未来創造のため、まちづくり、産業、文化、教育、学術などの分野で相互に協力し、地域社会への貢献と人材育成に寄与することを目的に締結した。

### ● 世界に広がる協定校

#### 三十七カ国・地域百六十五大学と協定

明治大学は、ウソン大学と研究科間協力協定を、対外経済貿易大学国際商学院と研究所間協力協定を、ロビラー・イ・ビルジリ大学と大学間協力協定を、サスカチュワン大学と学部間協力協定を、新たに締結した。協定校は三十七の国と地域で、百六十五大学（学部間協定を含む）となった。

### ● ルース駐日大使が来訪

国際連携機構は十一月十日、ジョン・V・

ルース駐日米国大使を本学に招き、納谷廣美学長、勝悦子副学長（国際交流担当）、大六野耕作政治経済学部長、バワーズ・ジェイムズ国際教育センター副センター長、フランク・ミシユラン国際連携機構特任准教授と、創立一三〇周年を迎え「世界へ」のコンセプトのもと本学をはじめ高等教育機関が取り組む国際化や、グローバル人材の育成について懇談した。

引き続きルース駐日大使は、明大生七十人との対話集会に出席。「日米関係の将来―東日本大震災を経験して―とする約十分間のスピーチ後、政治経済学部の伊藤剛教授の進行のもと、明大生からの質問や意見にコメントする形式での対話集会を行った。

### ●冬も節電

政府は十一月一日、今冬の電力需給について「今夏ほど深刻とはならない」との見通しを発表した。しかしながら、明大の電力を賄っている東京電力管内では、十二月一日から翌年三月三十一日までの平日九時から二十一時まで、国民生活および経済活動に支障をきたさない範囲で、使用電力を抑制するよう要請がなされている。そこで明大（節電対策部会長 財務担当常勤理事・橋口隆二）は、「教育・研究という大学本来の使命」と「節電という社会的責任」の両立を果たすべく、

使用最大電力を契約電力の一五％に抑制（節電）することを自主的な努力目標とした。

### ●大学院文学研究科

#### 文芸メディア専攻開設記念シンポジウム

大学院文学研究科は十一月十二日、文芸メディア専攻開設記念シンポジウムを駿河台キャンパスにて開催した。このシンポジウムは、文学研究科の新たな専攻として二〇一二年四月に文芸メディア専攻が開設されたことを記念し、「へよむ」となみと、その未来」をテーマに開催されたもの。会場には本学の学生をはじめ約百二十人の受講者が集まった。

### ●硬式野球部 十五年ぶり五度目の日本一！

明治大学体育会硬式野球部は十一月二十七日、明治神宮外苑創建八五年記念「第四十二回明治神宮野球大会」決勝に臨み、二対〇で愛知学院大学に勝利し十五年ぶり五度目となる優勝を飾った。

### ●大学王座決定戦で優勝

#### 弓道部男子五十一年ぶりの快挙

明治大学体育会男子弓道部は二〇一二年十一月十六日、納谷廣美学長、長堀守弘理事長、柳沢副学長を駿河台キャンパス大学会館に訪ね、十一月に行われた全日本大学王座決定戦五十一年ぶりの優勝を報告した。同八月の二

十四年ぶりのインカレ制覇、続く一〇月の一部リーグへの昇格決定に次ぐ朗報となった。

### ●明大祭・生明祭に六万人

学生が主役の秋のビッグイベント、「第百二十七回明大祭」（十一月三日～五日）と「第十一回生明祭」（十一月十八日～二十日）が開催され、様々な企画展示やイベントなど合計六万人が学園祭を満喫した。

### ◆駿台トピックス

#### ●連合駿台会寄付講座を開催

昨年十一月十一日、明治大学アカデミーコモンで、連合駿台会寄付講座が開かれ、当会の専務理事・坏昭二氏が講義を行いました。本講座は、「明大出身経営者にイノベーションの今を聴く」をテーマに、春期と秋期の年二回行われてきましたが、今回は、『IT産業の技術革新はいつまで続くのか？』と題し、IT産業の歴史を検証し、今後の産業がどう変わっていくのかを、多くの映像を交えながら講演、当会関係者からも四十人を超える聴講者が参加し、活気ある講義となりました。

### ◆祝・叙勲

会員の片倉洋氏（昭和四十一年政経学部卒、㈱八千代銀行取締役会長）が、昨秋の褒章で、藍綬を受章されました。

## ◆十一月例会出席者

青木孝、秋山隆敬、坪昭二、浅倉晴司、池田勝也、石橋良一、石原道勝、石原裕司、伊東正博、岩山征弘、上西紘治、宇川一夫、内田八郎、大石哲也、大村託現、勝俣正義、菊部彰夫、河合秀二郎、河村博、北野大、木村健一、清野明男、河野典男、小島清治、根田哲雄、斉藤春夫、斉藤弘之、斎藤柳光、坂田英夫、佐々木伸一、佐藤和正、佐藤健、真田瞳、澤野太嘉嗣、志田憲彦、真貝達朗、同ご友人、杉浦伸二、鈴木勝利、鈴木俊充、鈴木紀行、宗邦雄、相臺志浩、園田英次、高澤徹、高橋郁夫、武田宣夫、田嶋幸一、田村駿、辻嘉右工門、天童美德(代理)、中川敏洋、長堀守弘、中村欣治、並木洋一、西尾勝治、二宮充子、二宮忠、楡井敏雄、橋口隆二、長谷川勝彌、長谷川進一、林邦雄、林威樹、原田榮、平川清、比良田幸雄、廣石清治、福田和彦、富士豊、同ご友人、藤巻伴英、舟橋達彦、同ご友人、松江康司、松崎優子、摩尼和夫、丸山律夫、宮下隆、向井眞一、村岡健、室井恵明、安河内究、山田朝彦、山本和巳、湯川孝則、義江邦夫、渡辺紀之、渡邊洋三、学生校友会(MGK)三名

計八十九名

## ◆事務局よりお知らせ

平成二十四年における、例会等の日程は下記の通りです。

・三月十日・十一日

第三回連合駿台会オープンゴルフ

・三月例会 三月二十一日(水) 十八時  
・五月総会 五月十八日(金) 十八時  
・七月例会 七月十八日(水) 十八時  
・九月例会 九月二十日(木) 十二時  
・十一月例会 十一月二十一日(水) 十八時

## 【編集後記】

新年明けましておめでとうございます。皆様方にとって、平成二十四年(二〇二二年)が希望に満ちたよいお年でありませう、心よりお祈りしております。

昨年は三・一一東日本大震災という未曾有の大災害、夏には台風の影響で、近畿・中部・東海が水害に見舞われ、海外でもタイで大洪水が起りました。自然の驚異を目の当たりにし、人類にはコントロールできない経験をしました。いまだ福島原発事故も収束せず、不安を抱えた毎日となっております。

昨年十一月一日にわが明治大学は創立一三〇周年を迎え、記念式典が執り行われ、小生もお招きに与りました。式典は、厳かな中にも活気に満ちており、理事長・学

長が式辞等が前向きなお言葉を

そ国際化の一つの方法ではないでしょうか。この特別講義は、来年度も経営学部で開講の予定です。

葉で、興味深く感銘を受けました。大学の国際化に向けて力説され、いかにそれが大学の大きな課題であるかを印象付けたものでした。今の日本は、少子高齢化、人口減少は明らかで、何らかの形で対処せねばなりません。その大きな解決策の一つが「国際化」であると考えます。人口の減少した分を海外より人を招聘し、文化交流を図ります。単なる人口減少の対策ではなく、海外との交流による高度な社会生活を目指すというものです。

また、昨年九月より、十四週間「実践に学ぶツーリズム産業論」として政治経済学部新田教授の下、業界の有識者を招き講義をしていただきました。この講座は来年度同規模で開講の予定です。ツーリズム産業は小生の携わっているところでもあり、国際化に少しでも貢献できればと考えております。

昨年六月・七月には経営学部安部教授にお世話になり、十週間にわたり特別講義として各国の日本駐在大使による講演を行いました。講義はすべて英語で、学生諸君も熱心に耳を傾け、質疑応答も英語で行われました。これこ

たくさんのアイデアをお持ちの方がいらつしやると思いますので、積極的に学校にご提案をいたいただくことも、新旧世代の交流にもつながると思います。

(広報委員長・中村 裕)